

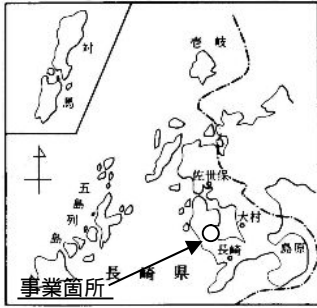
再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：長崎振興局 道路建設課
担当課長名：岩永 修二

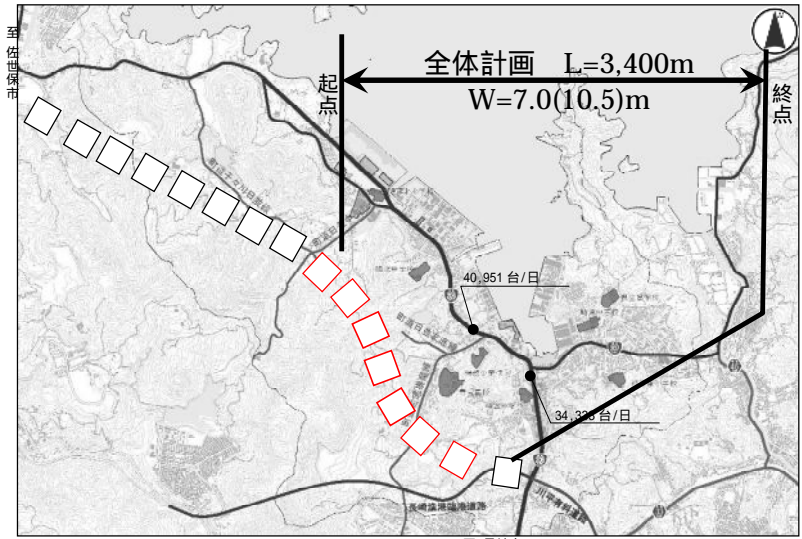
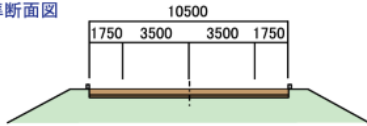
事業名	地域高規格道路 <small>にしそぎ</small> 西彼杵道路 一般県道奥ノ平時津線（時津工区） <small>おくのひらとぎつ</small>	事業区分	地方道	事業主体	長崎県
起終点	自：長崎県西彼杵郡時津町日並郷 <small>ながさきけんにしそぎぐんとぎつちようひなみごう</small> 至：長崎県西彼杵郡時津町野田郷 <small>ながさきけんにしそぎぐんとぎつちようのだごう</small>			延長	3.4 km
事業概要	一般県道奥ノ平時津線（時津工区）は、時津町中心部を通過する交通を分散することで、慢性的な交通混雑を緩和するものである。また、「西彼杵道路」の一部を形成し、地域間の交流促進や産業振興・観光振興の活性化に寄与するものである。				
H26年度事業化		H25都市計画決定		H27年度用地着手	
H27年度工事着手					
全体事業費	約133億円	事業進捗率	約88%	供用済延長	km
計画交通量	13,100台/日（H42）				
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年 令和3年	
	(事業全体) 1.16 (残事業) 17.35	(残事業)/(事業全体) 16/143億円 〔事業費：15/142億円 維持管理費：0.89/0.89億円〕	(残事業)/(事業全体) 166/166億円 〔走行時間短縮便益：156/156億円 走行費用減少便益：5.7/5.7億円 交通事故減少便益：4.4/4.4億円〕		
感度分析の結果	残事業（全体事業）について感度分析を実施				
【全体事業】	交通量変動：B/C=1.23～1.25（交通量 ±10%）		【残事業】B/C=2.00～2.03（交通量 ±10%）		
	事業費変動：B/C=1.14～1.39（事業費 ±10%）		B/C=1.84～2.24（事業費 ±10%）		
	事業期間変動：B/C=1.19～1.30（事業期間 ±2年）		B/C=1.97～2.08（事業期間 ±1年）		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎市と佐世保市とのアクセス性の向上（地域間の連絡時間短縮による産業振興及び緊急医療の支援） ・都市内ネットワークの形成（時津町内の慢性的な交通渋滞の緩和による産業振興・物流活動等の活性化） ・緊急・災害時への対応（津波浸水区域の回避に伴う緊急医療の支援） 				
関係する地方公共団体等の意見	「時津町」・「西彼杵道路・長崎南北幹線道路建設促進期成会」より整備促進の要望が行なわれている。				
事業評価監査委員会の意見					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	近隣の時津第10工区で埋立造成・販売等を進めており、隣接する国道206号の交通量が増加している状況。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	令和2年度末までの事業進捗率は88%まで進捗しており、用地取得率も100%である。今後、土工及び舗装工を推進し、令和4年度の完成を目指す。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	地質の相違等への対策による工事の遅れが課題。令和2年度に全ての用地取得が完了し、用地取得率は100%となっており、引き続き早期供用を目指して整備を進めていくもの。				
施設の構造や工法の変更等	地すべり対策工の追加、土質改良の追加、橋台施工に伴う仮設工の追加				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	事業の必要性を考慮した場合、事業継続が妥当と判断される。				

事業概要図

位置図



標準断面図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
総費用と総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。

令和3年度 第3回 長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

道建 - 1 道路改築事業
一般県道奥ノ平時津線
(時津工区)

事業主体 長崎県

再評価の理由 再評価後変更(事業費)



1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B / C	備考
		着工	完了			
当初 (H26新規評価)	—	H26	R2	89.0	1.4	【工事概要】 延長3.4km 幅員7.0(10.5)m
第1回審議 (H30年度)	事業費増額 工期延長	H26	R4	133.0	1.24	【当初評価からの変更概要】 ・土質の相違に伴う工法変更による事業費の増額 ・各種対策工の追加に伴う事業量の増加による工期の延長
第2回審議 (R3年度)	再評価後変更 (事業費増額)	H26	R4	142.9	1.16	【前回評価からの変更概要】 ・土質の相違に伴う工法変更による事業費の増額

2. 目的・事業概要・これまでの経過

目的

一般県道奥ノ平時津線「時津工区」は、長崎市と佐世保市を1時間以内で結ぶことを目指して整備している地域高規格道路「西彼杵道路」の一部であり、時津町中心部の渋滞を緩和することで、交通事故の減少や地域経済の活性化を目的としている。

事業概要

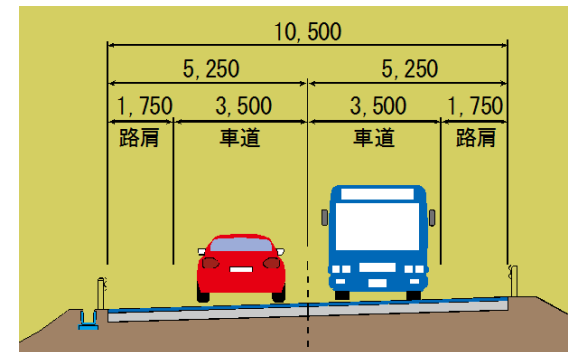
計画延長等	L=3.4km
幅員	W=7.0(10.5)m
計画交通量(R12)	13,100台

事業経過

平成26年度	事業化
平成27年度	用地買収・工事着手
平成28年度	トンネル本体内工着手 左底高架橋着手
令和元年度	トンネル本体内工完成 野田高架橋着手
令和2年度	左底高架橋 架設完了



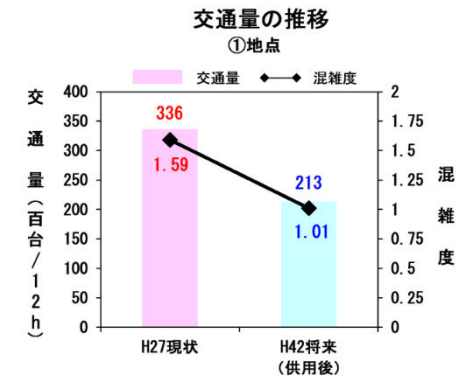
標準断面図



事業進捗率 88%
用地進捗率 100%

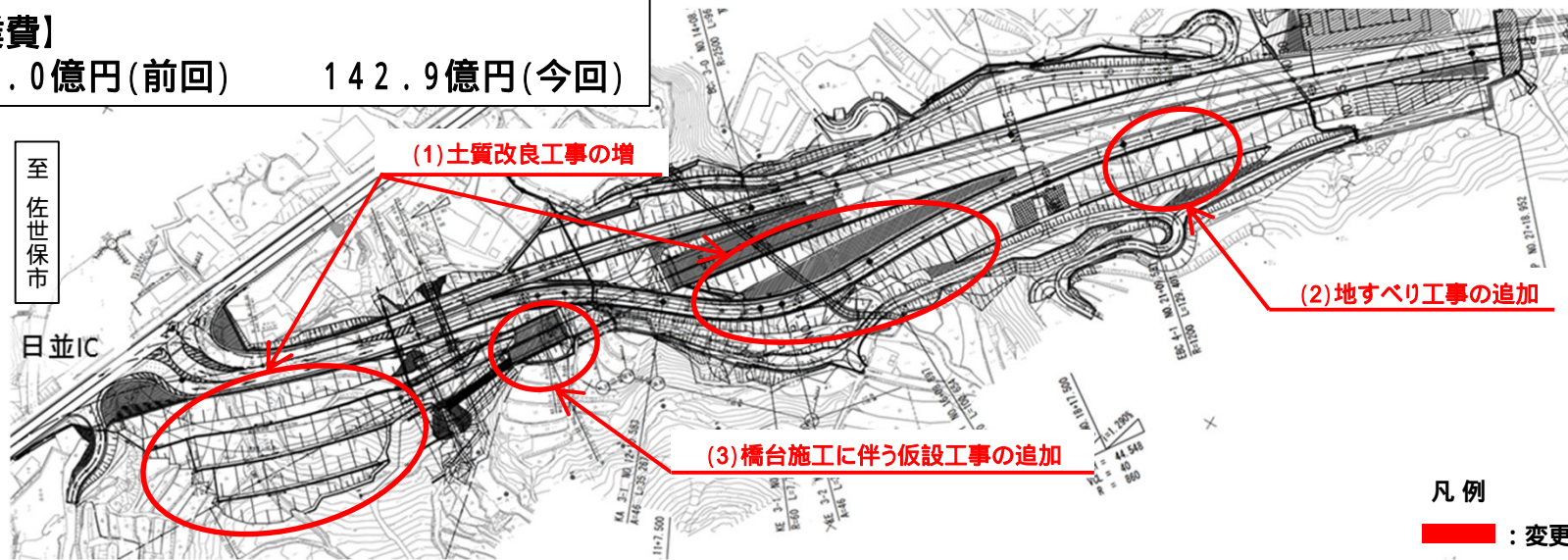
3. 事業の効果・必要性(交通混雑の緩和)

- 時津町中心部の国道において、慢性的な交通混雑が発生しており、左底交差点等で頻繁に渋滞が発生している。一般県道奥ノ平時津線の整備により、交通量の分散化を図ることで混雑を緩和し、安全かつ円滑な交通の確保を図るものである。



4. 事業の進捗状況(事業費の増加)

【事業費】
 133.0億円(前回) 142.9億円(今回)



事業費増の内容	増減額	主な増額理由
(1)盛土材改良の追加	+ 約5.3億円	・切土区間にて発生する土砂を、盛土材として工区内流用を予定していたが、現地着手後に土質試験を実施した結果、所定の数値を得られなかったため、土質改良を追加。
(2)地すべり対策工事の追加	+ 約2.0億円	・R3年5月に発生した降雨により地すべりが発生したため、法面対策工や仮設工を追加。
(3)橋台施工に伴う仮設工事の追加	+ 約1.3億円	・橋台施工時において、安定勾配で床掘を行ったところ、想定より土質状態が悪く、掘削面に変状が発生したことから仮設工を追加。
(4)その他	+ 約1.3億円	・労務単価や資機材単価の上昇、水源補償
計	約9.9億円	

4. 事業の進捗状況(事業費の増加)

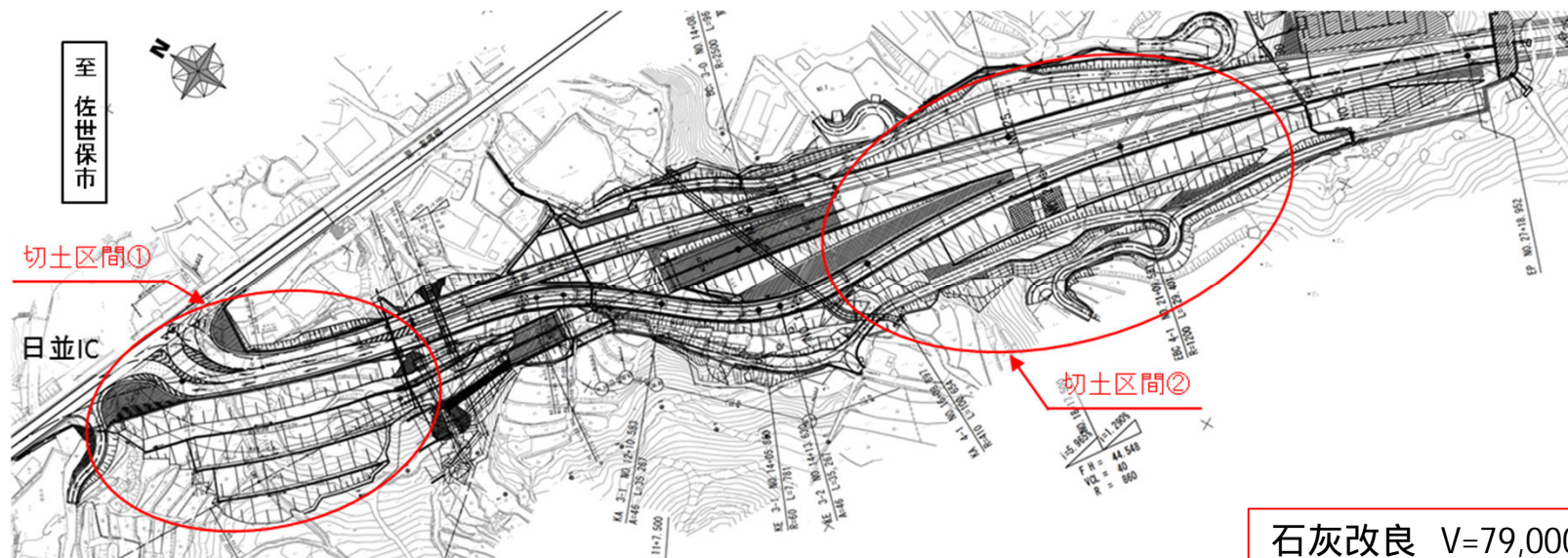
土質の相違による工法変更

(1)土質改良工の追加【+5.3億円】

切土区間にて発生する土砂について、地質調査結果により路体材や路床材に流用できると想定しており、盛土区間への流用を予定していた。

しかし、R3年度より現場に着手し、土質試験を実施したところ、流用可能となる所定の数値を得られなかった。これらの結果より、路体材及び路床材へ流用すべく、土質改良(石灰による安定処理)を追加する必要性が生じた。

【平面図(日並側)】



盛土部【+5.3億円】

切土土砂の流用にあたり、土質試験においてそのままの状態では所定の数値を得られなかったことから、土質改良として石灰混合による安定処理を行い、路体盛土および路床盛土へ流用することとした。

(添加量：30kg/m³)

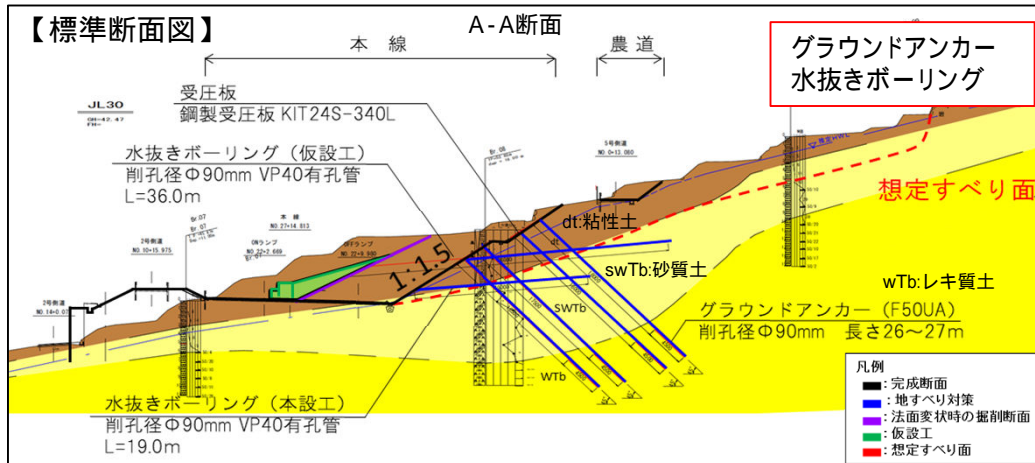
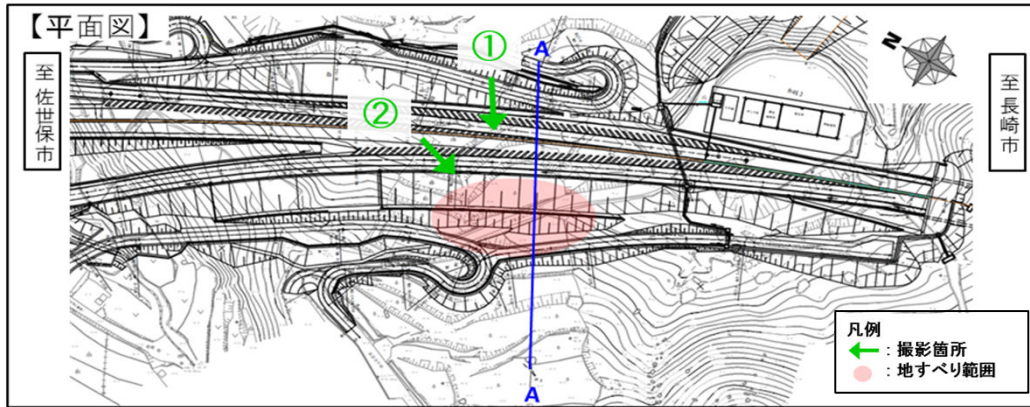
4. 事業の進捗状況(事業費の増加)

土質の相違による工法変更

(2)地すべり対策工の追加(+2.0億円)

地質調査結果により、法面の安定を図るために安定勾配(1:1.5)での切土を行っていた。

しかし、R3年5月の降雨の際に法面の変状が生じたことから、地すべり対策としてグラウンドアンカー工及び水抜きボーリングを追加する必要性が生じた。

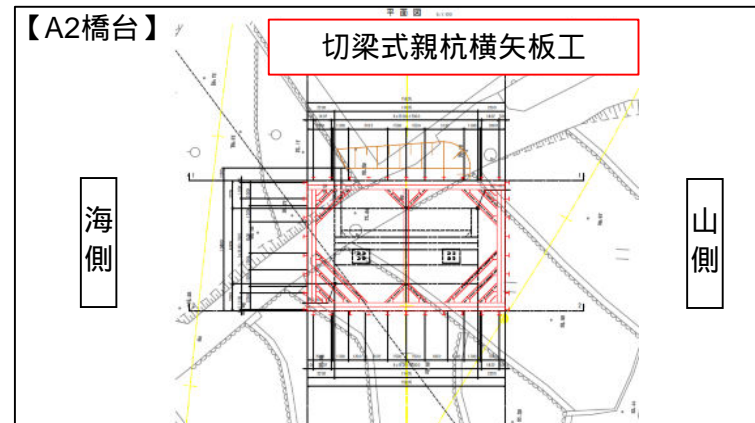
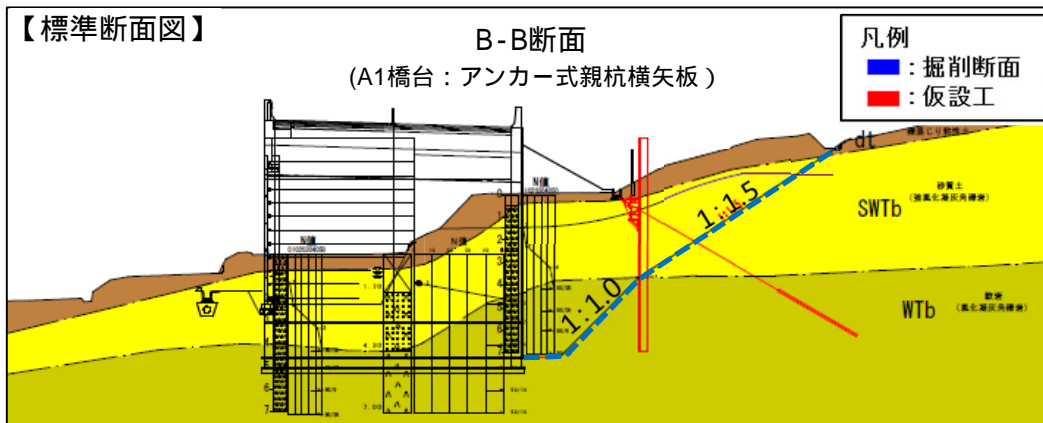
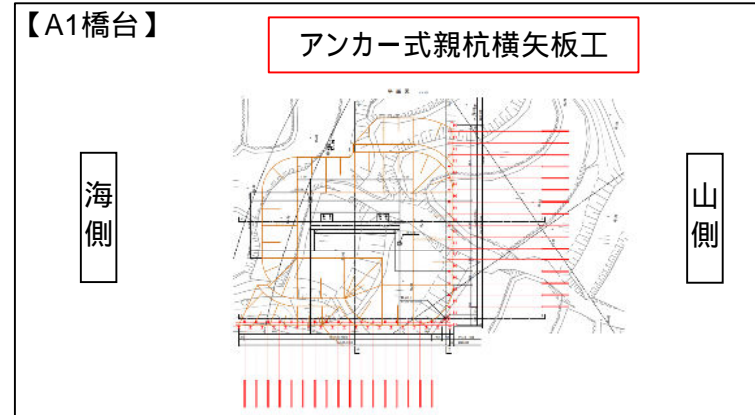
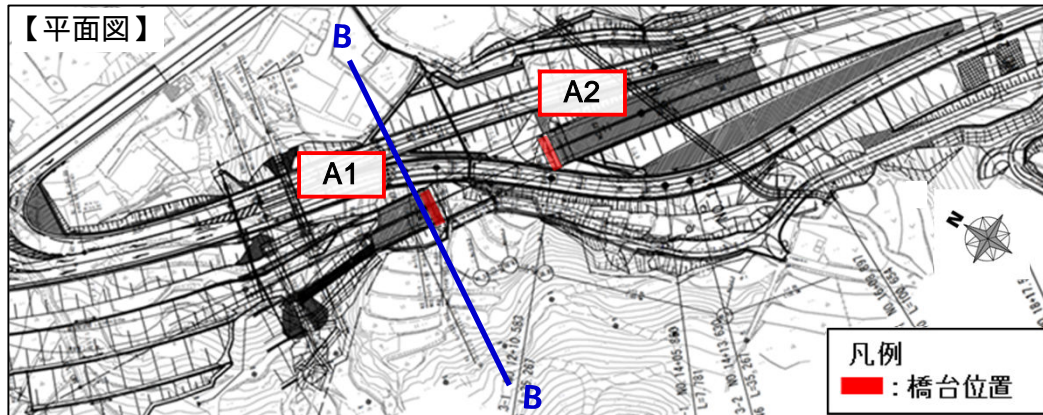


4. 事業の進捗状況(事業費の増加)

土質の相違による工法変更

(3)橋台施工に伴う仮設工の追加【+1.3億円】

橋台施工に伴い1:1.5の床掘を行っていたが、A1橋台の床掘り中に掘削面に変状が生じたため、床掘における仮設工を再検討し、A1橋台においてアンカー式親杭横矢板工、A2橋台において切梁式親杭横矢板工を追加する必要性が生じた。



5. 社会経済情勢等の変化

- ・整備区間周辺において、土地開発公社による「時津第10工区」が整備され、住宅地や商業施設として分譲されており、地域経済の活性化が期待される。
- ・町施行の子々川日並線が今年度完成するため、町道と連携して交通の分散化が図られる。



6. 事業の投資効果

◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (平成30年度)	今回評価 (令和3年度)
残事業	2.0 = 147億円 / 75億円	17.3 = 166億円 / 10億円
全事業	1.24 = 147億円 / 118億円	1.16 = 166億円 / 143億円

[費用]

- ・道路整備に要する事業費、道路維持管理に要する費用

[便益]

- ・走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事故減少便益

[プラス要因]

[マイナス要因]

- ・事業費の増加

◆ B/Cでは計測できない効果

- ・緊急輸送道路の機能強化

7. 対応方針(原案)

- ◆ 事業進捗率は事業費ベースで約88%〔126.4億/142.9億〕(令和2年度末)であり、用地買収はすべて完了している。
- ◆ 時津町内の交通渋滞の解消が期待され、交通事故の減少や地域経済の活性化に寄与する事業である。
- ◆ 時津町より早期の完成供用を要望されている。
- ◆ 事業費の増額はあるものの、費用対効果が見込まれる。

